

平成31年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人としま未来文化財団	
施 設 名	豊島区立舞台芸術交流センター（あうるすぽっと）	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	19,272	(千円)
公演事業	15,986	(千円)
人材養成事業	2,294	(千円)
普及啓発事業	992	(千円)

1. 事業概要

(1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	「絵本のじかんだよ！」	2019年7月30日	出演：小林顕作、舞台監督：鈴木章友、 照明：篠木一吉、音響：小笠原康雅	目標値	580
		あうるすぽっと		実績値	578
2	「にゅ～盆踊り」	2019年8月12日	出演：コンドルズ他、舞台監督：筒井善昭、 照明・音響・設営：シグマコミュニケーションズ	目標値	4,000
		東池袋中央公園		実績値	4,700
3	国内演劇共同制作公演	① 6月/②9月/③1月	① ゴールデンレコード(ホチキス) ② 真田十勇伝(SHOW 特急) ③ クリシェ(ティーファクトリー)	目標値	6,600
		あうるすぽっと		実績値	5,766
4	みんなのシリーズ第四弾 「能でよむ～漱石と八雲～」	2019年11月9～10日	出演：安田登、玉川奈々福、塩高和之、 舞台監督：岡田直哉 舞台技術：岡田舞台	目標値	550
		あうるすぽっと		実績値	454
5	講師神田松之丞 新春連続読み2020 「畔倉重四郎」	2020年1月4～15日	出演：神田松之丞	目標値	1,100
		あうるすぽっと		実績値	2,993
6	新春ファミリー企画 ストーリーマジックライブ 「魔法使いの頭の中」	2020年1月24～26日	出演：魔法使いアキッ	目標値	915
		あうるすぽっと		実績値	990
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
<p>1. ミッションに沿った事業運営</p> <p>下記に沿って事業を展開しほぼ予定通りに事業を実施しました。（新型コロナ感染拡大防止のため中止事業有）各事業をミッションに基づいた3つのビジョンに沿って整理しました。</p> <p>(1) ミッション: 多くの劇場が集積する「演劇の街・池袋」の拠点として機能し、芸術文化を通して多様な人々が集い交流する「みんなの劇場」として、活力に満ちた豊かな地域社会の実現を目指す</p> <p>(2) ビジョン:</p> <p>『いどむ』舞台芸術作品の創造・発信を通じ 豊島区の実現と地域の活性化に寄与します。</p> <p>＝すぐれた作品を創造・発信し続けること</p> <p>事業名→神田松之丞連続読み「畔倉重四郎」・「能でよむ～漱石と八雲～」</p> <p>『つなぐ』地域社会の文化芸術及びコミュニティ活動に地域劇場として貢献します。</p> <p>＝地域で働き、暮らす人々のニーズ(鑑賞や発表)に応える「地域の公立劇場」であること</p> <p>＝地域住民の誇りであり拠り所であること</p> <p>事業名→「にゅ～盆踊り」国内演劇共同制作公演・「魔法使いの頭の中」・地域連携ワークショップ・ダンスワークショップ・舞台芸術講座・家で楽しむ！絵本読み聞かせワークショップ</p> <p>『ひらく』多様な人々の交流や活性化を促進し社会的価値を醸成する</p> <p>＝交流と多文化共生を推進し、社会的に機能する場であること</p> <p>事業名→地域連携ワークショップ・観劇サポート講座</p>
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
<p>1. 文化的意義</p> <p>新作をプロデュースし、東京以外の地域にもツアー公演を実施し全国に文化事業を普及させています。</p> <p>2. 社会的意義</p> <p>障がいの有無、経済格差を越えて多くの方々が鑑賞できるスキームを構築し、継続事業として展開しています。</p> <p>3. 経済的意義</p> <p>助成金を得ることにより、アクセシビリティの強化、チケット料金の低減が可能となり「誰ひとり取り残さない」というSDGsの理念に直結する持続可能な実施体制を構築しています。</p> <p>4. 青少年の育成、障がい者等への取組内容</p> <p>子ども向けワークショップの継続実施、事業毎に手話、字幕を取り入れるなどアクセシビリティ充実を図り、また関連団体とアクセシビリティ関連シンポジウムを開催するなど重点課題として取り組んでいます。</p> <p>5. 地域住民の鑑賞活動及び文化芸術活動の拡大に資する取組状況</p> <p>豊島区民先行・割引を実施し地域住民を強く意識したチケット販売を行っています。また、子ども向けワークショップにおいては年々豊島区民の参加割合が増加しています。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

目標・指標設定の考え方→劇場のビジョン・ミッションに沿って設定。目標達成度は以下の通りです。

1. 公演事業の目標と成果

(1) 多くの人々を対象とするための多岐にわたるジャンルの舞台芸術をラインナップします。

読み聞かせ、ダンス、伝統芸能(手話・字幕付き／連続読み)、子ども向けなど多岐にわたり目標達成

(2) 世界に発信する事業へ取り組み、たえず人と文化との交流が積極的に図られる場となります。

申請事業外の劇場主催事業で国際共同制作作品に向けてのワークショップを日英間で実施し目標を達成

(3) 「みんなの劇場」として、0才～高齢者まで全ての年齢層を対象とします。

子育て世代、外国人を含む多世代、若い世代を中心とした全ての世代に向けて実施し目標を達成

(4) 複数の世代間に橋をかける事業をラインナップします。

全ての事業で上記を実施し目標を達成

(5) 独自性を重視し、あうるすぽっとでなければ観ることが出来ない唯一のものを展開します。

伝統芸能公演に字幕や手話をつけ、通常は実施困難な講談の連続読みに挑戦するなど独自性を出し目標を達成

2. 人材養成の目標と成果

(1) 事業実施においてスタッフが地域住民と触れ合うことでより身近な劇場にしていきます。

大学・地域連携ワークショップにおいて、地元 NPO 及び地域の 5 団体から協賛を得、目標を達成

(2) 将来、劇場あるいは芸術全般の分野で働くことを目指す人材を養成します。

思考の基礎となるアートマネジメント講座を例年に引き続き実施し、その後実践の現場も提供し、目標を達成

3. 普及啓発の目標と成果

(1) いろいろな才能、期待、意欲を持つ様々な人が集まり、相互に関係する出会いを促す場を創出します。

「ダンスワークショップ」において、経験・年齢などを問わず募集し、さまざまな年代の参加者が集まる事によって、新たな出会いが生まれ連帯感を高めることができ、目標を達成

(2) 情報と人材の交流を生産することなど、劇場は地域における媒介者的な役割を果たします。

劇場主催の講座プログラムへの参加により文化への親しみと関心を増し、またそこで出会った参加者が更なるネットワークを生むことが期待できました。今後も継続してより一層、目標の達成に近づけていきます。

2. 主な指標と成果

(1) 0才から楽しめる子ども達の最初の良質な劇場体験の場の提供 5地域以上の公演を目指す。

『絵本のじかんだよ!』→東京 2 回、都城市、魚沼市、秩父市、蓮田市の 5 地域で 6 回公演し指標を達成

(2) 日本の伝統芸能に触れる機会を提供する事業実施について事業全体に対する割合を増加させる。

【2017 年度】21%【2018 年度】32%【2019 年度】自主企画公演 8 公演計 40 回中 16 回 40%で指標を達成

(3) 自主企画公演のキャパシティに対するチケット販売率を増加させる。

【2017 年度】66%【2018 年度】80%【2019 年度】85%達成(フルキャパ 7,777 席／販売数 6,596 席／販売率 85%)

(4) 地域との連携を深める

地域連携ワークショップにおいて連携先は下記のように多岐にわたり指標を達成

【協力】NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク(事業協力)【協賛】5 団体

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

1. 事業期間

劇場として年間を通して事業を実施しました。公演事業、人材養成事業については事業期間は適切で計画通りに実施、普及啓発事業のワークショップ 2 事業は事業期間を短縮しかつ対象者を幅広い年齢層の参加を促進するよう変更しました。

2. 事業費

(1)3年間の推移(劇場主催事業全体)(単位:千円)

		事業費
H29	2017年度	63,431
H30	2018年度	76,837
H31	2019年度	56,328

(2)2019年度の事業費(助成対象事業のみ)(単位:千円)

	決算	予算	予実差異
公演事業	28,594	44,016	-15,422
普及啓発	4,217	6,450	-2,233
人材養成	2,784	3,227	-443
計	35,595	53,693	-18,098

効率的経営を意識し、事業費抑制を意識しながらも芸術的成果を上げることための努力を継続しています。劇場内人材の専門性を高め主催事業の運営に取り組んでいます。

3. 経営戦略

助成金などの外部資金の調達に加え、ここ3年で成果を上げているのは、チケット収益及び地方公演収入の増加です。チケット収益を伸ばすためにあらゆることに取り組みました。まずはホームページリニューアルを始めとする広報戦略の見直し、そして何より良質の舞台を話題性のあるキャスティングで創造することに力点を置きました。親しみやすい「みんなの劇場」で一流の舞台を楽しむことができるというアピールを続ける戦略をとり成果を上げています。

4. 総入場者数 3年間の推移(単位:人)

		劇場	展示	合計
H29	2017年度	57,351	4,077	61,428
H30	2018年度	70,334	4,172	74,506
H31	2019年度	58,540	3,240	61,780

※2019年度においては新型コロナ感染防止のため中止した事業があり減少、展示は実施が例年より短期間だったこともあり減少しました。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

1. あうるすぽっとの機能

創造・発信型劇場として公演事業、人材養成事業、普及啓発事業を独自企画で実施、前述した劇場のミッション「みんなの劇場、あうるすぽっと」を上記3つの柱を連携させながら事業展開し、機能性を高めました。

2. 劇場の運営体制

(1)運営責任者＝支配人1名(2020年4月現在 4年目)役割:あうるすぽっと事業全ての経営責任者

(2)芸術的内容に関する責任者＝チーフプロデューサー1名(〃 5年目)

役割:あうるすぽっと主催事業の企画立案、タイアップ公演の選定、貸館演目の事前調整などプログラミングの責任者

(3)舞台技術の責任者＝管理・技術マネージャー1名(〃 7年目)役割:劇場技術面及び劇場管理の責任者

上記に加え上記スタッフ8名がシフト制で勤務、舞台管理に関しては業者委託です。

3年前から上記の体制が整い、ミッション・ビジョンの再定義、リブランディングを実施し、事業収入増加、地方公演実施、有料入場者数増加において成果を上げています。

3. 創造活動にかかわる建物設備等

アクセシビリティに特に力点を置いています。段差なく劇場内入場が可能、オスメイト付きトイレの設置など建物設備は整っています。

4. 企画内容、芸術性

(1)公演の特徴、工夫、戦略

多くの人々を対象とするための多岐にわたるジャンルの舞台芸術をラインナップすることを目指しています。広く門戸を開き、人々を招き入れる場としての機能を充実させることを第一義とし、次に「みんなの劇場」として、0才～高齢者まで全ての年齢層を対象とし、世代を意識した事業を実施しています。また、個々の事業に関わるクリエイションスタッフ、アーティスト、出演者はその分野で注目され、期待され、将来を担う一流の方々に委嘱しています。独自性を重視し、あうるすぽっとでなければ観ることが出来ない唯一のものを展開し続けています。

(2)人材養成、普及啓発の企画内容の高さ、特色

地域の方々が観客として招かれる立場から、地域の住民として他地域の方々を招く立場になる、そのためには劇場をもっと知ってもらうことが必要という観点からあうるすぽっとスタッフ自身が地域住民と触れ合うことでより身近な劇場することを実践しています。(地域連携ワークショップ)加えて、将来、劇場あるいは芸術全般の分野で働くことを目指す人材を養成を要請することを目標とした事業も継続しています。(アートマネジメント講座)また、文化施設で働くスタッフが障害を持つ方をお迎えする時のサポートを十分に対応できることを目標に掲げ、座学+実践講座を計画しました。(アクセシビリティ講座・中止)



左：子どもに見せたい舞台 vol. 13 『春春～ポムポム』 撮影：田中亜紀

右：『能でよむ～漱石と八雲～』 撮影=山本未紗子 (BrightEN photo)

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

6. 地域文化の発展

(1)ステークホルダーや地域のニーズ

豊島区の文化政策を推進するべく企画立案を実施しています。2019年に豊島区は「東アジア文化都市 2019 豊島」を実施しましたが、その中心となる「舞台芸術部門」スペシャル事業をあうるすぽっとが企画制作致しました。また、地域のニーズに捉え、課題解決に取り組み、学習支援を受けている家庭、一人親家庭、外国籍の親をもつ子どもたちを招いた公演事業、ワークショップ事業を実施しました。（地域連携ワークショップ）

(2)地域の実演芸術の振興

年間 20 日～30 日程度「区民シリーズ」期間を設定し、豊島区民団体が劇場を優先的に利用できるスキームを整備しています。

(3)地域の文化芸術の発展

豊島区民に向けた多世代に向けたワークショップ（あそぶ演劇ワークショップなど）の実施、無料で誰でもが参加できるイベント（にゅ～盆踊りなど）を毎年継続的に実施しています。



左:『あそぶ演劇ワークショップ』 撮影:あうるすぽっと

右:『にゅ～盆踊り』撮影:涌井直志

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

公共ホールとしてミッションを実現するために持続的に組織運営を進めるよう以下の取組を実践しています。

1. 人材面

(1)人事戦略

ア. 人事異動のローテーション: 内部職員が常に上位のポジションにつけるよう研修及び昇級試験(=採用試験)に挑戦するように指導しており、組織内でのキャリアパスを実践する仕組みとなっています。

イ. 人材配置の状況: 現在管理・技術グループ、制作グループと2グループ制ですが両グループの業務を横断してチーム制で事業を実施しています。これによりノウハウの蓄積、専門性の獲得、リーダーシップの取り方などを全スタッフが学ぶことが可能です。

ウ. 経営に関わる人材の育成状況: 劇場職員の誰もが経営に関われるよう指導し、予算管理、ファンドレイズなど劇場経営の仕組みを共有しています。

エ. 事業運営に関わる人材の育成: 上記同様です。適材適所を見極め、年ごとに育成職員を定め特に集中的に経営または事業運営を指導しています。

オ. 平均勤続年数: 5年程度

カ. 正規雇用率: 職員11名はすべて(公財)としま未来文化財団所属、うち2名無期雇用転換済(定年65歳)他の9名は5年未満で現状は有期=非正規雇用です。便宜上、正規雇用率は現状2名18%となっています。

キ. ボランティアの有無: ボランティア組織はなく、インターン研修生が期間限定で事業に関わっています。

2. 財務面

毎年助成金を確保、チケット収益も18年度は前年比3倍、地方公演収益も加わり収益基盤は安定しています。

事業収入・助成金収入の推移(単位:千円)

		チケット	地方公演	助成金	その他	合計
H29	2017	6,741	4,760	31,218	1,082	43,801
H30	2018	18,547	19,221	23,122	826	61,716
H31	2019	16,186	4,635	22,650	741	44,212

3. ステークホルダーとのコミュニケーションの方法・頻度

所管の豊島区文化商工部文化デザイン課とは日常的に報告・連絡・相談を実施の上、月例会議を実施しています。

地域NPO、企業とは事業単位でオンラインMTGなどを行っています。

4. 各方面とのネットワーク

各公共ホール、教育機関(立教大・早稲田大・跡見女子大他)や地域企業、NPOなどと連携しています。

5. 施設面

(1)建物や設備の回収や修繕、日常的な管理状況、投資状況

年間20日程度を保守点検日とし複数の専門委託業者とともに修繕実施、舞台管理委託会社が日常的に舞台機構の管理を実施しています。

(2)個別施設計画策定の有無

有・所管の豊島区文化商工部文化デザイン課と施設計画策定中です。